



和歌山市議会議員 戸田正人 市政報告通信

STAY DREAM

●発行者：和歌山市議会 絆クラブ ●編集者：和歌山市議会議員 戸田正人
●連絡先：〒640-8156 和歌山市七番丁23 和歌山市議会絆クラブ 073-435-1115

2011年4月におこなわれた統一地方選挙で、和歌山市議会議員として再び議席を頂いてから2年が過ぎ、あっという間にマラソンでいう中間点を回り終え、折り返したといった感じでしょうか。

この2年間は、浪人していた4年間のブランクを取り戻すべく、まずは和歌山市行政の状況や和歌山市議会における議会運営の流れの把握などに努めました。また、多くの勉強会、講義にも参加し、議員としての自覚を向上させました。

さて、今までの地方議員はどちらかと言うと、地元の道路や側溝などの整備、福祉、教育、納税の相談など生活関連や環境改善に関する地域密着の要望をお聞きし、坦々と行政に働きかけ市民生活の環境向上に努めるものでした。また、議会においては行政のチェック機能として、予算や条例などの審査、審議をすることを目的としてきました。

しかし、2000年に施行された「地方分権一括法」により、主な目的として、住民にとって身近な行政は、できる限り地方が行うこととし、国が地方公共団体の自主性と自立性を十分に確保することとされ、自治体の現場と住民との狭間で思い悩んできた「法令基準」を自治体自らが定め、住民の意思や想い、及び自治体の方向性を明確に条例に示し、地方行政運営を推し進めていかなければならない時代が訪れたといっても過言ではないと考えています。

今回、和歌山市議会では史上初となる議員提案による条例「みんなでとりくむ災害対策基本条例」を全議員で取り組み可決。議員自ら条例を提案し、本市防災に対する市民意識と、防災行政の政策を提案し反映させることに成功したのです。

したがって地方議員は、今までどおり地域住民の声を聞きながら地域の環境整備向上に努めたり、当局提案の予算案や条例案などをチェックすることに加え、市域全体のことを鑑み、自らの手で住民や街の方向性、意思である条例を制定し施策に反映していかなければならず、議員として大きな仕事の役割が確立されたのです。

これからの地方議員は、地方自治のスペシャリストとして、地方自治体のなかで確たる政治家でなければならぬと自覚をしているところです。



和歌山市議会議員 戸田正人 主な役職

(H25年7月現在)

和歌山市議会総務委員会 委員長

総務公室、危機管理局、財政局、選挙管理委員会、人事委員会、監査委員会などの予算案、条例案、その他の事項を審査、調査する、和歌山市議会における四つの常任委員会のうちのひとつ。



環境保全対策委員会 委員

和歌山市の環境保全に関する調査、及び対策について審査し、議論する。

第二阪和国道建設促進議員連盟 副会長

大阪と和歌山を結ぶ約20.6kmの幹線道路で、国道26号線の渋滞緩和、急カーブの解消、及び本市産業経済の飛躍的な発展に寄与する事を目的としている第二阪和国道についての早期完成を促進する活動。



日台友好和歌山市議会議員連盟 幹事長

台湾との友好、親善、文化交流を通じ、人的交流を深め、日台間における真の友好関係を目的とし活動。



和歌山市廃棄物対策審議会 委員

一般廃棄物の収集運搬に関する業務の合理化、処理について市長が必要と定める事項を審議する。

和歌山市都市計画審議会 委員

都市計画を定めるときに、都市計画法に基づき都市計画の案を調査審議する。

和歌山市居住表示審議会 委員

町名、町割、街区割、及び住居番号の設置、変更、廃止に関する事、その他住居表示の実施に必要なことを審議する。

和歌山市長期総合計画審議会 委員

本市の将来像を市民に明確に示し、地域づくりの最上位に位置づけられる「和歌山市長期総合計画策定」について審議し、その結果を市長に答申する。



和歌山市議会議員 戸田正人 活動報告

歩行者専用道路

四箇郷地区北加納・松島北自治会に全長233メートル、幅員2メートルの歩行者優先道路が今年度約1億3千万円の予算を獲得し完成、7月1日付で開通しました。



宅地開発が進み自動車が増え、加納浄水場南側の東西に延びる市道の幅員も狭く歩行者の安全確保もし辛い状況下で、地元要望による加納浄水場更新工事の附帯工事として後押しさせて頂き設置できた遊歩道です。また、4ヶ所の自動車待避所も設置できました。

北加納、松島北自治会の新名所として、子ども達のスクールゾーンとして、住民の皆さんの散歩道として、様々な活用をしていただけたらと思っています。

J A 四箇郷跡地を有効活用

兼ねてからの地元住民の要望であり、懸案事項であった四箇郷連絡所前、J A 四箇郷（現在は移転）の東側、J R 阪和線を横断し南北を通る狭小道路（全長49.65m、幅3.3m）を道幅約6mに拡幅するために、昨年度から地元の皆さん方と市長陳情や当局との度重なる交渉の末、平成25年度当初予算で総額約1億円の予算を獲得する事ができました。

その予算の詳細は、道路用地買収だけではなく、J A 四箇郷跡地約384坪（現在は移転）全ての用地を買収し、一部を道路拡幅に使用、それ以外の用地を四箇郷地区支所・連絡所の駐車場、及び児童公園を設置する工事予算を含む金額です。

この事業が成功すれば、四箇郷地区のメイン道路における南北道路の交通緩和や、四箇郷地区ではまだまだ不足している児童



生徒たちの児童公園の確保、及び連絡所にお越しになれる住民のみなさんへの駐車場確保など、地域にとっての環境向上が図られるものと考えます。



今後の地域のあり方は、地域住民自らが自分達の街づくりを提案し、それを和歌山市行政と議論しながら政策を反映させていく、いわば自分達の地域は、自分達の手で住みよい環境づくりをし、運営していくという、地域の実情に見合った街づくりのヒントとなる事業と位置づけしています。

四箇郷北小学校安全交通対策

四箇郷北小学校北側では、宅地開発が進み、のどかな田園風景があつという間に生活感あふれる街に変貌しつつあります。

四箇郷地区に移住して来られる方々には、町が活気づき大歓迎であります。しかしながら、宅地開発と共に道路や水路などの生活インフラについての諸問題（道路が傷んだり、生活排水の流量が増えたり）なども発生するものです。

とりわけ、四箇郷北小学校の北側出入口はブロック塀に囲まれており、道路へのアプローチが死角になるとのことでした。今までの、道路はほとんど車が通らなかったのですが、近隣では宅地開発がすすみ、その道路も拡張され交通量も多くなってきたとの事です。

そのため、取り急ぎ四箇郷北小学校北側ブロックを撤去し、見通しの良いフェンスに取り換えてもらいました。子ども達が、校外に出る前に、道路状況を確認しやすい環境を作ることが安全対策の一役を担えるものと考えております。



加納地区道路、排水溝整備

昔からの慣れ親しんだ道路と側溝が新しく生まれ変わりました。特にご高齢者の方の自転車や、手押し車など、以前の道路では大変走行や歩行し辛かったのですが、改修された道路と側溝では凹凸もなく、快適になりました。



ただ、子供の頃から遊んだり、走ったりしたことのある慣れ親しんだ思い出の道路だったので、時代と共に変化していく町の風景に、少しもの悲しさをも覚えました。

和歌山市立学校における国旗の常時掲揚について

私は、昨年12月議会で和歌山市教育委員会に対し、和歌山市立学校における国旗の取り扱いが入学式や卒業式など年数回程度しかなく、児童生徒における、国旗、国歌への思いや重要性、意義からも、**毎日、学校現場で国旗を掲揚すべきと指摘した件**で、和歌山市教育委員会は（平成25年2月20日付）原一起和歌山市教育長名で「和歌山市立学校における国旗常時掲揚について」の通知を各学校長に提出しました。本来、各学校における国旗の常時掲揚について「一般質問」で取り上げ、教育委員会に質し、このような通知文をもって常時掲揚を促す事自体、如何なものかなと思うところではありますが、少しでも国旗掲揚の意義や日本人としての自覚を教職員や児童生徒、地域の方々への再認識に繋がってくれることを期待するものです。

和歌山市立学校国旗常時掲揚状況（和歌山市立学校72校中→62校が国旗を常時掲揚86.1%）
平成25年7月現在



和歌山バス鳴神路線廃線からみる公共交通

岩橋文化会館で行われた和歌山バス『鳴神線』廃線に伴う地元の方々と和歌山市当局を交えた意見交換に出席してきました。

そもそも、連合会第4ブロック(四箇郷、西和佐、和佐、小倉)は小倉連合自治会からの協力要請を受け、鳴神線の小倉までの延伸や新路線の要望活動を行ってきましたが、和歌山バスから赤字を理由に鳴神線自体の存続が不可能との解答があり、昨年9月に廃線が決定されました。しかし、その後も地元の方々の力強い存続活動が盛んに行われ最終的に鳴神バス路線が存続すること運びとなりました。

このドタバタ劇をみて「公共交通とは何か？」とあらためて考えさせられたものです。

それは、交通弱者救済のために、例え乗車する市民が一人しかいなくとも住民福祉理念に基づき、行政サービスとして位置付けしバス運行を行政主導のもと行うべきものなのか、翻って、一般事業と位置付けしたうえで、費用対効果を優先順位にし、ある一定の乗車人数が確保できなければ交通空白地区が生じても致し方ないと考えられるべきなのかです。

小泉内閣時代に行われた規制緩和による運輸法改正により、バス事業者は当該自治体の認可を受けずとも独自の経営判断で廃線を決定することができるようになりました。したがって、廃線を決定した路線に対して自治体ができることは、バス事業者に対して赤字分を補てんし、バス路線を維持する事か、ただひたすら存続をお願いする事しか術がないのです。いずれにしても、和歌山バス（株）の事業方針次第で和歌山市の公共交通ネットワークに混乱が生じ、市民はもとより和歌山市自体が振り回されているようではいけないと考えます。

和歌山市の公共交通に対する意志を明確にすると共に、新しい時代の公共交通の青写真を再構築し、和歌山市が主導権を取るような公共交通形体にしなければならないと考えます。



外国資本における日本の土地買収についての国民集会でパネラーとして参加

尖閣諸島における中国の日本の領海侵犯や新潟県での中国総領事館のための約5000坪の土地買収、北海道などでは水資源を目的とする土地買収など、国内における中国系企業の買収行為に日本政府はもとより、各地方自治体でも大変思慮するところだ。

さて、そのような社会情勢のなか、6月2日（日）東京都永田町の砂防会館にて「日本の領土・領海を死守する国民集会」が約700名の来場者、及びインターネットによる全国配信のなか、盛大に開催されました。私は、第4部のパネリストとして登壇し和歌山県の状況、ならびに私の見解を全国の方々に発表してまいりました。

【プログラム】

■第1部 13:00～13:30

基調講演…織田邦男氏(元航空支援集団司令官・三菱重工(株)航空宇宙事業部顧問)
「台頭する中国にどう対峙するのか」とのテーマ、元航空自衛官として分析された中国情勢の基調講演。

■第2部 13:30～14:00

中国総領事館問題等の報告
コーディネーター 河添恵子氏(ノンフィクション作家)

■第3部 14:00～15:00

パネルディスカッション〈提言〉 コーディネーター 神谷宗幣氏(龍馬プロジェクト全国会会長)
パネラー ペマ・ギャルポ氏(桐蔭横浜大学・大学院 教授)
酒井信彦氏(日本ナショナリズム研究所所長・元東京大学史料編纂所教授)
河添恵子氏(ノンフィクション作家)

■第4部 15:00～16:00

各地域の現状を伝える国会議員・地方議員の登壇
コーディネーター 河添恵子氏(ノンフィクション作家)



第4部では、国会議員や各方面からの地方議員が登壇され、活発な議論がなされましたが、私も登壇し発言させて頂いたひとりです。外交、防衛はもはや国会だけの議論ではなく、私達地方議員や国民ひとりひとりが各地方で話し合い、大いに議論していかなければならない、延いてはそれが国民世論となり、国民が政治に携わるきっかけとなるものと感じたものでした。



国民集会で発表したレポート

中国系ペーパーカンパニーが数年前に取得を試みた大型リゾート施設「グリーンピア南紀」を巡る大騒動と、再調査して分かった新たな事実

紀伊山地の霊場と参詣道で知られている和歌山県紀南地区、その地区の那智勝浦町と太地町間に当時「グリーンピア南紀」という旧厚生省が1986年に122億円の公的資金を投じて建設した保養施設がありました。しかし、2003年に経営不振のため封鎖、2005年7月には那智勝浦町に譲渡され、同年12月に中国系香港のペーパーカンパニー（資本金15万円）と再開発する名目で、10年間で1億6千万円の賃貸契約を締結、そして、特約事項に10年後には無償譲渡するというとんでもない格安条件を結んだのでした。しかも、中国系香港ペーパーカンパニーボアオの選定に関しては、一般公募をしておらず密室で決定したとのことでした。

しかし、その後グリーンピア南紀跡地は全く手を付けられる事なく、敷地内にある与根河池（よねごいけ）水系の山林伐採を一部したのみで再開発工事は未着手のまま、2007年、この企業、及び事業の進捗状況に不審を持った地元那智勝浦議会は「契約白紙」へと動き、翌

年2008年には1億7千万円の補償をボアオに支払って調停合意ができ契約解除に至ったというものでした。

- 1986年 旧厚生省が122億円の公的基金で「グリーンピア南紀」を建設
- 2003年 経営不振のため閉鎖
- 2005年7月 グリーンピア南紀を那智勝浦町に譲渡
- 2005年12月 中国系香港企業のボアオと賃貸契約
- 2007年11月 那智勝浦町がボアオとの契約を白紙撤回求める
- 2008年7月 補償金1億7千万円で調停合意、契約白紙に至る

最終的に、多くのメディアやコメンテーターは「ボアオはリゾート地開発する予定などは毛頭なく、将来グリーンピア南紀を横断するであろう、高速道路（バイパス）用地を事前確保して、いわゆる土地ころがしをして儲けるつもりだった」と推測されて、この話が終結したのです。

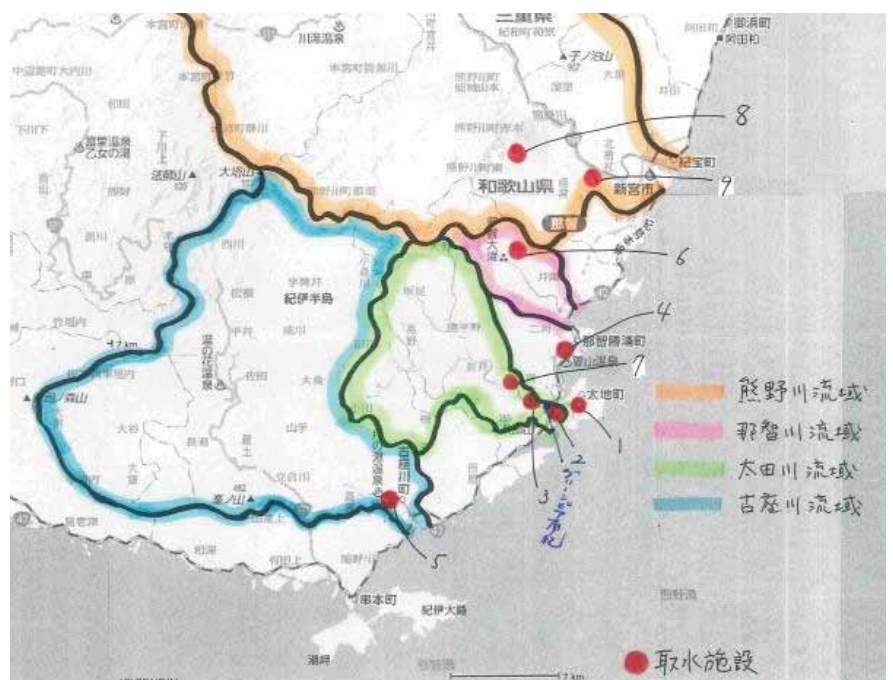
しかし、昨今の中国企業における「水資源狙い」の土地買収の実情を鑑みた時、もしかして、このグリーンピア南紀買収計画も「水資源狙い」ではなかったのかと私は考え、周辺市町村の取水状況を調査したところ、那智勝浦町、太地町との境に位置するグリーンピア南紀を中心とし半径約2kmの範囲に、図の①②③⑦の水源地の存在が判明したのです！（これらはすべて地下水で取水）

紀南地方の水源地が数多く集まっている部分が、グリーンピア南紀周辺に存在しており、あの時代背景では「土地ころがし」程度しか思っていなかった事が、今になっては紛れもなく「水資源を狙っていた」のではと邪推できるのです。

その様な状況のなか、和歌山県における「外国資本による森林買収」をどう意識しているのかについて、和歌山県農林水産部林業振興課にお尋ねしたところ、「水を枯らせてしまったり、環境を破壊されては困るが、法の範囲で取水してもらっても問題ない。本県の森林は外国資本に買収されようが、どこの企業に買収されようが特に問題はない。森林法に定められている範囲ならよい。」、また「本県においては、森林法に基づき、森林開発に伴う伐採強化について「伐採許可証旗」の掲示を求めており、これが抑止力になる。事前買収届けに関する条例は無くても十分抑止力がある」と回答。

私は和歌山県が森林法という国が定めた法律が全てと判断し、外国資本に買収されても特に問題がないと考え、外国資本による土地買収に対して、特段意識をしていなかったとの見解に、少し落胆したところで

す。
なぜならば、和歌山県の水源地や森林は、単なる「土地」ではなく、私たちの先祖が守り続けて下さった故郷の地であり、世界遺産でもある紀伊山地の霊場と参詣道は、和歌山県の神々が宿る私たちのアイデンティティが存在するからです。もちろん、国の法整備が最優先だとは思いますが、法整備を待つだけではなく、自分たちの地域の領土や領海を守るため、自治体ができる最大限の条例や施策などを講じ、県民、市民意識を高める必要があると考えています。



facebook

戸田正人 フェイスブック 日記

インターネットのフェイスブックを通じて発信している日記を掲載してみました。

戸田正人四箇郷・出島地区後援会の方々と地区(出島・松島・加納・新在家・有本)の皆様へ挨拶まわり。お伺いした支持者の方に「がんばれよ！」のお声や、スイカを出して頂いたりと感謝感激です。とても暑い一日でしたが一気に生き返りました(笑)



和歌山市からJリーグを目指すサッカーチーム、アルテリーヴォ和歌山の応援に行きました！連敗続きだからこそ、応援に行きたくなるものです！開始さうさう、応援しているDF前山選手のヘディングシュート！今日は必ず勝たなければならぬ試合だ！がんばれ～



和歌山市議会にWBC女子世界フライ級チャンピオンの真道ゴー選手が、和歌山市スポーツ特別栄誉賞を授賞され、報告に来て下さいました。

これを機に、和歌山市が女子ボクシングのメッカになるべく、真道選手と共に地元も盛り上げていきたいと思えます(^o^)

和歌山から全世界に羽ばたいていって下さい！



大阪伊勢丹で開催されている『春の院展』に伺いました。和歌山市に寄贈頂き、市役所玄関ロビーに展示してある日本美術院同人推挙作品『孤城落月』の作者である和歌山市在住の日本画家清水達三画伯の作品がお目当てだったので。

今回、清水画伯の作品は『紀の川』をテーマに描かれており、多くの来場者の方に解説も踏まえて和歌山をPRして下さっていました。ありがたい事です。



本町ラグタイムというライブハウスで長瀬剛さんを敬愛する私、戸田正人が戸田渚(ライブに立つときの芸名)として歌いちぎりました。いや、しゃべりすぎました(笑)

出演者のみなさん、応援に来て下さった皆さん、ほんとにありがとうございました。明日からは和歌山市議会開会！準備万端です。気持ちを切り換えて頑張ります！



和歌山と台湾の交流をより活発にするために若い仲間たちと「和歌山日台交流協会」を立ち上げました。その仲間たちが和歌山市議会を訪ねて来て下さったので、議場見学をしていただきました。議場初体験のみなさんは子供の頃の社会科見学のように楽しんでおられたのが印象的でした。



facebook

戸田正人 フェイスブック 日記

地元加納の氏神さん「塩野神社」で恒例のもちまき。子供から高齢者の方まで、声を出して楽しんでいました。これも日本の良き伝統であり、地域の人々との繋がりのひとつだと感じたと共に、もちまきを支えてくださっている地元の方々に心から感謝いたします。



f いいね!

青森県青森市の三内丸山遺跡に訪問しました。縄文時代(4000年から5500年前)、私達日本人の先祖(縄文人)が当時着ていたとされる衣装を身にまとい、日本の深い歴史を感じる事ができました。昨今、中国では自国の文化が、世界一歴史があるという事を誇示するため、日本の弥生時代以降の事しか認めず、中国の教科書や歴史書から日本の縄文時代を削除しています。信じがたき事ですが、この丸山遺跡に来ると、縄文時代に我が国の文明が存在したものと間違いなく確信できるものでした。



f いいね!

世耕弘成参議院議員のブレインのひとりである堀義人グロービス経営大学院学長(京都大学工学部卒、ハーバード大学経営大学院修士課程終了)の講義に参加し有意義に勉強してまいりました。



民間経営者はどのように政治家を支持すべきかなど、民間経営者と政治家との関係やバランスを説明。

また、ビジネスは、社会貢献が第一の目的。売り上げ、利益は社会に対して価値を提供した結果、得られるものと力説されておりました。

f いいね!

和歌山市婦人総合体育大会におじゃましました。しかし、恒例の仮装競技なると一転、四箇郷婦人チームの一員として参加させていただき、仮装モデルとして「釣りバカ日誌の浜ちゃん」に変身することとなりました。ちなみに一昨年はマツケンサンバの松平健さんに変身させていただきました。今年も何に変身できるか楽しみです(^ ^)



f いいね!

議会開会中時、私の机の上は毎回こんな状態になってしまいます(^ ^;) 単に整理ができていないだけ!? いえいえ、勉強している証です!(笑)



f いいね!

和歌山市議会議員 戸田正人

検索

日々の活動をフェイスブックやツイッター発信中

